

市長賞

黒々と現れたれば衣更え筋肉質の富士の高嶺ぞ

篠原三郎

【評】

「躓けど両手の杖に身を支え上るしかなき卒寿の山は」という歌も詠む作者。こちらの作品も市長賞の候補でした。もし歌のように「卒寿（九十歳）」を迎えた作者だとしたら、雪が解けて黒々とした夏の富士を「筋肉質の富士の高嶺ぞ」ととらえる感性はとてすばらしいと思います。しばし沈黙しているものの、今なお活火山である富士山。武骨な夏山は確かに「筋肉質」なのかもしれません。印象に残る一首でした。